

経営学学位プログラム (博士後期課程)
Doctoral Program in Business Administration

授与する学位の名称	博士(経営学) [Doctor of Philosophy in Business Administration]	
人材養成目的	高度専門職業人の養成・再教育に対する社会的要請に応え、企業や社会が直面する新たな類型の問題について、経営学における高度な専門知識と客観的な経営データ分析能力に基づく総合的かつ高度な判断能力を持ち、適切な解決策を提示できる高度専門職業人、及びその経験を有効に活用し得る国際性を備えた研究者を養成する。	
養成する人材像	博士(経営学)の学位に相応しい専門知識を有する人材を育成する。加えて、課題発見能力、概念構成能力をはじめとする論理的思考能力や課題解決のための発想力および十分な議論が可能なコミュニケーション能力を具備する人材	
修了後の進路	多種多様な業界、職種をバックグラウンドとする現役の社会人が対象であり、在学中に修得した知見を礎として、企業・官庁・団体における経営管理、研究開発等様々な部門におけるジェネラリストまたはスペシャリストとして活躍する者の外、大学等の高等教育機関の教員として研究を行う者、あるいは、在学中や修了後に転職を指向する者や、起業する者など	
ディプロマ・ポリシーに掲げる知識・能力	評価の観点	対応する主な学修
1. 知の創成力: 未来の社会に貢献し得る新たな知を創成する能力	① 新たな知の創成といえる研究成果等があるか ② 人類社会の未来に資する知を創成することが期待できるか	ビジネスマネジメント特別演習、ビジネスマネジメント講義、専門科目(マーケティングコミュニケーション、マーケティング・サイエンス特論、経営戦略総論、実証会計論、金融工学総論、共分散構造分析特論、情報検索特論、複雑システム論、計量マーケティングモデル特論、組織研究、調査データ解析特論、ソフトコンピューティング、金融データ解析、情報マネジメント等)、博士論文作成、研究計画発表・中間発表・ドラフト発表・予備審査・最終発表、学会発表等
2. マネジメント能力: 俯瞰的な視野から課題を発見し解決のための方策を計画し実行する能力	① 重要な課題に対して長期的な計画を立て、的確に実行することができるか ② 専門分野以外においても課題を発見し、俯瞰的な視野から解決する能力はあるか	ビジネスマネジメント特別演習、ビジネスマネジメント講義、専門科目(金融ビジネス総論、リスクマネジメント総論、プロジェクト・マネジメント論等)、研究計画発表・中間発表・ドラフト発表・予備審査・最終発表、学会発表等
3. コミュニケーション能力: 学術的成果の本質を積極的かつわかりやすく伝える能力	① 異分野の研究者や研究者以外の人に対して、研究内容や専門知識の本質を分かりやすく論理的に説明することができるか ② 専門分野の研究者等に自分の研究成果を積極的に伝えたとともに、質問に的確に答えることができるか	ビジネスマネジメント特別演習、ビジネスマネジメント講義、専門科目(計画数理総論等)、研究計画発表・中間発表・ドラフト発表・予備審査・最終発表、学会発表等
4. リーダーシップ力: リーダーシップを発揮して目的を達成する能力	① 魅力的かつ説得力のある目標を設定することができるか ② 目標を実現するための体制を構築し、リーダーとして目的を達成する能力があるか	ビジネスマネジメント特別演習、ビジネスマネジメント講義、専門科目(組織行動論等)、チームでのコンテスト参加、学会での質問、セミナーでの質問等
5. 国際性: 国際的に活動し国際社会に貢献する高い意識と意欲	① 国際社会への貢献や国際的な活動に対する高い意識と意欲があるか ② 国際的な情報収集や行動に十分な語学力を有するか	大学院共通科目(国際性養成科目群)、専門科目(国際政治経済の概況と経営等)、ビジネスマネジメント輪講での外国語文献・国際論文輪講、ビジネスマネジメント講義での国際学術論文執筆演習や国際会議発表演習等
6. 経営に関する研究遂行能力: 経営学の高度な専門知識を習得し、高度専門職業人として経営学的観点と客観的な定性分析・定量分析に基づく研究を遂行できる能力	① 重要な課題に対して、専門知識に基づいて長期的な研究計画を立てることができるか ② 国際的な情報収集や行動に十分な語学力を有するか	ビジネスマネジメント特別演習、ビジネスマネジメント講義、専門科目(マーケティングコミュニケーション、経営戦略総論、実証会計論、ネットワーク特論、組織研究、国際政治経済の概況と経営等)、研究計画発表、ドラフト発表、学会発表等

7. 経営に関するエビデンスベース分析能力: 問題分析に際して経営学分野に含まれる多面的な観点と高度な専門知識に基づく客観的な定性的・定量的データを用いた分析が行える能力	① 重要な課題に対して、客観的事実を収集することができるか ② 収集した客観的事実をもとに分析が行えるか	ビジネスマネジメント特別演習、ビジネスマネジメント講究、専門科目(マーケティング・サイエンス特論、人材開発論、分散構造分析特論、複雑システム論、計量マーケティングモデル特論、計量ファイナンス特論等)、中間発表、ドラフト発表、予備審査、最終発表、学会発表等
8. 経営に関する課題解決能力: 問題解決に際して経営学分野に含まれる多面的な方策と高度な専門知識を組み合わせた経営分析モデルを構築し解を提示できる能力	① 定量的あるいは定性的な分析手法の理論を理解し、適切に適用できるか ② 得られた結果を解釈し、自らの言葉で表現し、他と議論することができるか	ビジネスマネジメント特別演習、ビジネスマネジメント講究、専門科目(金融工学総論、確率モデルと意思決定、計画数理総論、プロジェクト・マネジメント論、ソフトコンピューティング等)、中間発表、ドラフト発表、予備審査、最終発表、学会発表等
9. 経営に関する知の伝達能力: 学術・実務いずれの場においても経営学の高度な専門知識と研究成果を的確に伝達し発展させる能力	① 専門知識の本質を論理的に説明することができるか ② 専門知識の本質を他と共有することができるか	ビジネスマネジメント特別演習、ビジネスマネジメント講究、専門科目(知的ドキュメント管理論等)、サーベイ発表、学会発表等
10. 経営に関する知の伝承能力: 自らの知見や経営学の高度な専門知識、研究成果を受け継ぎ発展させ得る後進を育てられる能力	① 専門知識の本質を理解することができるか ② 専門知識を運用し、研究に反映できるか	ビジネスマネジメント特別演習、ビジネスマネジメント講究、専門科目(情報検索特論等)、研究計画発表、ドラフト発表、学会発表等

学位論文に係る評価の基準

主査1名および副査4名以上(論文審査委員会の設置母体となる組織の専任教員以外を1名以上含む)の論文審査委員会の合議で行う。

次の評価項目

1. 研究課題の意義、
2. 内外の先行研究の包括的な理解と把握、
3. 研究方法の厳密な提示とその妥当性、
4. 論証方法や結論の妥当性と意義、
5. 論文の形式・体裁、

上記の評価項目を内容として含む学位申請論文を、学位論文としての水準の観点から、論文審査ならびに最終試験において評価し、可否の判定を行う。

カリキュラム・ポリシー

経営学分野に関するより高度で専門的な知識及び能力を修得させるとともに、当該専攻分野に関連する幅広い基礎的素養、ビジネスおよび人文社会における広い視野、社会の多様な場での活躍を支える汎用的知識・能力を涵養するように適切に配慮して、理論と実践のいずれか一方に偏ることない体系的なカリキュラムを提供する。特に、ビジネス科学をめぐる現代的な課題への理解を深める機会を積極的に設ける。また、社会人のための夜間大学院として、平日の夜間及び土曜日を基本とした開講時間帯の中に科目を合理的に配置するなど、効率的で実効的な教育課程を編成する。

教育課程の編成方針

経営学において一般的にコア領域とされる経営戦略・経営組織、マーケティング、会計、ファイナンスを中心に据えつつ、現代の経営を高度化する上で重要となる計量分析に代表される数理科学やシステム科学、情報学関連領域の講義科目を配置するとともに、特別研究や講究等を介して、ディプロマ・ポリシーに示した能力を育成する。研究面では、研究計画、サーベイ論文、中間論文、ドラフト、予備審査、最終試験からなる6ステージ制によるマイルストーンを用意することで、計画的な研究活動を支援する。複数教員による指導体制を通して、多角的な思考能力を身につける。

- ・「経営戦略総論」等の専門科目群により、研究遂行能力、エビデンスベース分析能力や課題解決能力を身につける。
- ・「ビジネスマネジメント特別演習」等の研究科目群により、研究遂行能力、エビデンスベース分析能力、課題解決能力に加え、知の伝達能力や知の伝承能力を身につける。
- ・学生の専攻分野を軸として、関連する分野の基礎的素養や広い視野、汎用的知識・能力の涵養に資するよう、研究群共通科目、学術院共通専門基盤科目、大学院共通科目から1単位を履修することを推奨する。
- ・研究指導により、研究遂行能力、エビデンスベース分析能力、課題解決能力に加え、知の伝達能力や知の伝承能力を身につける。

学修の方法・プロセス	<ul style="list-style-type: none"> ・博士論文研究の推進に必要な専門科目群を、指導教員の指導・助言のもと、履修する。 ・経営学分野の博士として必要となる広範な専門的知識や能力を、履修者の興味・関心に基づいて履修する。 ・研究指導の面では、研究計画、サーベイ論文、中間論文、ドラフト、予備審査、最終試験からなる6ステージ制によるマイルストーンを用意することで、計画的な研究活動を支援する。複数教員による指導体制を通して、多角的な思考能力を身につける。
学修成果の評価	<ul style="list-style-type: none"> ・研究計画、サーベイ論文、中間論文、ドラフト、予備審査、最終試験のそれぞれのステージで達成すべき要件を明確化し、研究発表会・審査会でのプレゼンテーションならびに質疑応答を通して、その達成度を評価する。 ・評価の体制について、研究計画、サーベイ論文、中間論文、ドラフトにおいては、審査会でその達成度が評価される。予備審査においては論文指導委員会が予備審査委員(非公開)を指名し、予備審査委員が論文ドラフトを査読する。そして、論文審査委員会が最終試験を行う。
アドミッション・ポリシー	
求める人材	<p>社会人としてビジネスにおける問題意識に根ざした博士論文研究を実践する上で、現代の経営学分野の先進的な学術上のアプローチに強い関心があり専門的な知識・能力を有する人材を求める。加えて、研究を計画し遂行する過程では、自ら調べたり考えたりする積極的な姿勢を有し、担当業務や専門領域を超えて幅広い関心を持つ人材を求める。</p>
入学者選抜方針	<p>以下を評価し、総合的に判定する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・提出論文と研究計画書: 研究目的、研究方法の妥当性、研究の有用性・新規性ならびに文章表現能力 ・外国語試験 (TOEIC で代替): 英語でのコミュニケーション能力 ・面接試験: プレゼンテーション能力、研究意欲やディスカッション能力